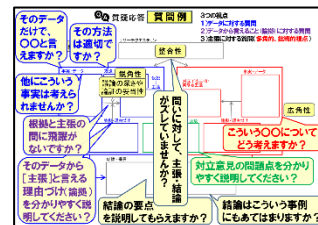


高等部教育目標				
イエス・キリストを通して、人と世界に仕える使命感と実力を養い、豊かな心と真摯な態度を備えた人格を培う				
探究型カリキュラム教育/学習目標				
SDGs の達成を目指し、Mastery for Service を体現する世界市民の一員として、国内外の社会に自ら関わり貢献できる力を育成する/身につける				
探究型カリキュラムにおける 5 つの学びの方針 Five Principles for Learning				
1. 自分事として <オーナーシップ/一人称>	2. 社会/実践を通して <PBL 型/アクション>	3. 知識を大事に <自ら得る知識/高める関心>	4. ミニケーションを通して <自分/他者のやりとり>	5. 生徒・教員が共に <共に探究する関係性>
上位学習目標				
【知識・技能】 ・自分が関心のある社会的課題の内容について、自分の言葉で説明することができる ・社会的課題に取り組んでいる団体、組織を訪れてフィールドスタディを実施することができる 【思考力・判断力・表現力】 ・自分が関心のある社会的課題について他者に自らの意見を伝える事ができる ・自分が関心のある社会的課題について調べ、その解決方法を考案することができる 【学びに向かう力・人間性】 ・主体性をもって、粘り強く学習課題に取り組もうとしている。 ・社会課題を自分事とし、社会に参画・貢献する姿勢を持とうとしている。				
下位学習目標				
【知識・技能】 ① 自分が関心のある社会課題の内容について、自分の言葉で説明することができる ② 社会課題に取り組んでいる団体や組織を訪れてフィールドワークを実施することができる ③ データや資料を適切に使って、効果的なプレゼンテーションを行うことができる 【思考力・判断力・表現力】 ① 自分が関心のある社会課題について、他者に自らの意見を伝えることができる ② 自分が関心のある社会課題について調べ、その解決方法を提示することができる 【学びに向かう力・人間性】 ① 数ある社会的課題の中から、自分自身がより理解を深め、課題解決をしたいと思うことができるものをみつけようとしている ② 社会課題と向き合う中で、その課題を学ぶことが自分自身の人生においてどのような意味を持つのか関連付けようとしている ③ 社会的課題に向き合う中で、社会的・文化的・歴史的な構造と人為との関係について考察しようとしている				

授業日	1 / 2 2 (水)	3 学期授業回数	3 回目 / 全 6 回 + 試験
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】③ 【思考力・判断力・表現力】① 【学びに向かう力・人間性】①② ＜本時の具体的な目標＞ これまでの調査で得た情報とそれに対する分析を根拠とし，RQ に対する主張を発表することができる。		
時間 授業内容	0	発表前の説明 ・来週から今までで作成したスライドをポスターに仕上げていく．ポスターは情報メディア教室で作成する． ・発表者は 5 分目安で発表し，聴衆は発表を聞きながら付箋に質問を書いていく． ・探究の教育を支援する会社を起業している大学生が来ているので，発表後に大学生による質疑応答がある． ・聴衆は「この主張はおかしいのでは？」と思えばその旨を付箋に書き，発表・質疑応答終了後に前の「主張のスライドに付箋を貼っていく． ・もらった質問に対して，反駁・反論を考え，さらにそれを取り込んで，より説得力のある結論を，残りの 2 週間で導いていく．これが対話型論証である． ・発表の仕方は，次のような流れを基本とする．「私たちは〇〇の課題について〇〇の問いを立てました」「そこから〇〇という仮説をたて」「先行研究を調べると〇〇という情報が得られ」「そこで私たちは実際に〇〇という調査をしました」「そこで得られたデータは〇〇です」「そして先行研究・調査によって得られたデータから，〇〇が言えます」「そこで，私たちは現在〇〇というように考えています」 ・各班のスライドは既に印刷済み．見にくい人は，共有ファイルで閲覧すること． ・「研究の枠組み」を利用して質問する 1) データに対する質問 2) データから言えること（論拠）に対する質問 3) 主張に対する質問 ・難しい人は，配布資料「質問のヒント」参考にすること．	
	1 5	A 班から F 班まで、順番に発表（5 分目安） 1. 班は壇上で発表する（聴衆は付箋に質問を書く） 2. 大学生より質問 3. 聴衆は付箋を前に貼っていく 4. 付箋貼り付け済のスライド用紙を回収し、発表班に渡す	
	6 0	教員と大学生によるフィードバックと、最終発表に向けての連絡 例）結論・提言は，今までの探究を俯瞰して自分たちなりの考えを書いていく。	
評価方法	① これまでの調査を、順序に沿って簡潔に発表することができる ② 「研究の枠組み」を参考に、質問をすることができる（質問の付箋を作成できる）。		
宿題指示	今回の発表でもらった質問に対して，反駁・反論を考える．さらにそれを取り込んで，より説得力のある結論を導く．		



配布資料「質問例」



発表の様子